

46年後の2055年の日本の総人口は8,993万人で、15歳以下が752万人、15～59歳が4,005万人、60歳以上が4,235万人と想像する事が困難な超高齢化社会がやってくる。今年6月の内閣府経済社会総合研究所の試算では2005年を基準にして将来世代の純負債額は1億794万円で生涯所得の50%を超えるという。つまり、現在の制度では将来世代が稼いだ金額のうち半分は、我々現役世代の借金返済に奪われる!!! 20～30代の若い世代の積極的な医療・社会変革への参画が必要だと思う。

今月の大きなトピックスは沖縄県医師会報に関するモニター調査結果です。調査の結果から会員の視点で会報誌作りを見直し、紙面づくりを改善するとともに、新コーナー開設、新たな工夫と広報委員会でも活発な議論が展開された。第19回沖縄県医師会県民公開講座、「ゆらぐ健康長寿おきなわ～健診受けてちゃーがんじゅう～」からは特定健診から見えてきた現場の問題と、新たな予防医療戦略の取り組みが必要ではないかと感じる。第189回沖縄県医師会代議員会報告は宮城会長の県医師会館建設の報告、県立病院の継続、地域医療再生の補正予算等の報告の後、平成20年度会計の報告、一般質問が行われた。緑陰随筆後編ですが、祝嶺千明先生の興味の尽きない異星(性)人考、白井和美先生の子育て奮闘記、城間勲先生の苦学生時代の貴重な思い出、新里敬先生の「今どきの若いもんは・・・」、杉山圭作先生のうらやましい花の単身赴任生活記、瀬尾駿先生のルーツを求めて、玉城聡先生の新医療経営科学観、寺田泰蔵先生のセレブなヨットセーリング実践記、仲里聰先生の外来笑い話、比嘉盛丈先生のうらやましい強運活用法、又吉隆先生の役立つ研修

医指導法と、俊逸な文章ばかりです。以上が今月のトピックスです。

生涯教育コーナーは小嶺幸弘先生の分かり易くてんかん治療と診療体制の見直しについてです。また作年度の生涯教育コーナー設問の上位申告者の森本哲也先生のこのコーナーへの思いに、心から感謝します。プライマリ・ケアコーナーは仲松正司先生、新里敬先生の梅毒についての詳細で、術前検査・針刺し事故時の梅毒検査不要論です。月間行事お知らせでは増田昌人先生の沖縄県のがん征圧に向けての取り組み、寺田泰蔵先生のメディカルコントロールについての概説、崎山八郎先生の結核感染症の日常の診療での注意点です。琉大脳神経外科に新たに就任された石内勝吾先生のインタビューコーナー、那覇市安里に開院した又吉内科クリニックの又吉亮二先生のピンクのバラのロゴマークへの思い、石原淳先生、名嘉村敬先生の研修指導医・研修医双方の視点での若手コーナー、発言席コーナーの饒波正博先生の地方自治体の財政についてのチェックの必要性など多彩な記事である。お盆休みにご活用下さい。

表紙のサボテンの花は月下美人、ドラゴンフルーツと同じで旧暦の13日ウンケーから15日ウークイの3日間、夕方から朝までの一晩限りの大きな、香り立つ花を咲かせる。満月の白い光の下で咲くサボテンの花を祖先の霊への供花とし、祖先の功績に思いをはせながら、我々現役世代が今果たさなければならない責務を熟考したい。サボテンの花の写真を提供された島袋毅先生の祖父母のご冥福をお祈りします。

広報委員 石川 清和